

## 江戸時代の経済発展、商業と流通

### 近世農業の発達

- (一) 新田開発の進展
  - ① 寛永の飢饉（1640年代初頭）
  - ② 大名処分の減少
- (二) 農業技術の進展
  - 農具の改良→集約型農業
  - 商品作物の生産
  - 都市における商品需要の増大
  - 肥料（金肥）農書の普及
  - 農村への貨幣経済が浸透

### 江戸時代の農業の発展

新田開発ではなくて

生産性アップ	→	商品生産の拡大	→	農書の普及
労力を減らし		都市手工業の発展		農業技術が全国に広がる
収穫を増やす		農村で原材料となる		「農業全書」
① 農具の改良		作物を作る		
備中鋤 唐箕		四木(桑、漆		
踏車 千石とおし		椿、茶)		
千齒扱		三草(麻、藍、紅花)		
② 肥料の使用		木綿		
自給肥料		菜種		
購入肥料				

### 結果

農業の発展 → 米が過剰に → 米価上がらず(他の物品に比べて)  
米価安 諸色高

### 江戸時代の商業と流通

- (1) 海運の整備（17C 後）
  - 河村瑞賢→ 東・西周り航路開発
- (2) 商人の変化

初期豪商 (17C 前)

価格差を利用/朱印船

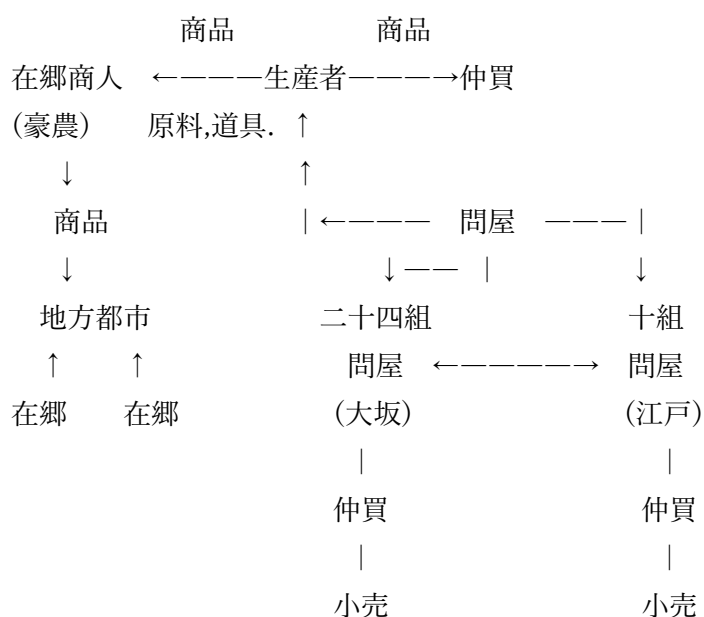
問屋 (の発達) (17C 後)

薄利多売

(3) 結果

諸国の物資が大阪に集まる(天下の台所)

### 江戸時代の流通



### 問屋同士が協力して物資を運ぶ

例)船が難破した際はみんなで弁償する

市場の変化

| 仲買、問屋仲間が強くなるにつれ

↓ 在郷商人に商品は回らなくなっていく

市場の形成 → 商品流通(18C 後)

仲買→地方都市→江戸→地方都市と商品が運ばれることで

商品の値段に運賃が上乗せされてしまう

↓

生産者と在郷商人(百姓)の中からマニファクチュア(19C 前)

↓

問屋や仲買が商品を手に入れにくくなったことで

江戸で品不足→物価高騰が起こった

江戸の物価高騰の背景には  
マニファクチュアの発達があったこと

## まとめ

### 商業・金融の発展

流通の担い手としての商人たちは問屋、仲買、小売りに分かれ、仲買の中には同業者組合である仲間を作って、営業独占を図って行った

幕府は最初、特定の業種を除き、仲間を認めていなかったが

商品の供給や品質の管理のために、それを認めようとするようになった

江戸―大阪間の商品の安全な輸送や、取引の円滑化を図るため、  
に結成改良された大

阪の二十四組問屋や江戸の十組問屋は、その代表的な仲間組織①

その後の享保期、田沼時代にも盛んに仲間が認められるようになった

① 二十四組問屋は大坂の江戸積問屋、十組問屋は菱垣廻船問屋

江戸の仕入問屋で、ともに問屋仲間の連合体である

二十四組問屋の注文に応じて江戸積み商品（下りもの）を仕入れ、菱垣廻船問屋

のち、十組問屋から酒店組が分派し、樽廻船を利用するようになった

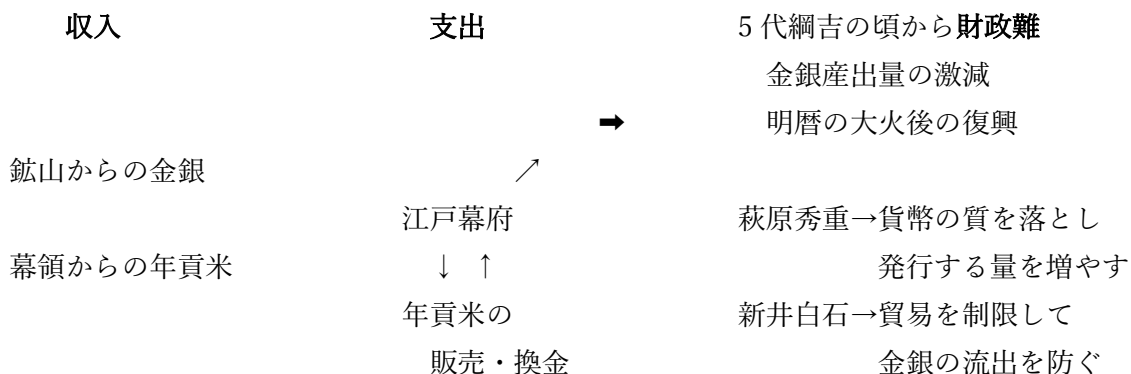
### 流通の変化と工業の発展

一方、手工業生産のあり方にも新しい動きが見られるようになった

18世紀には、問屋が都市民や農民に原料や資金を前貸し、加工賃を払って製品を引き取る問屋制家内工業が広範に展開していたが、19世紀前半期になると綿織物業や絹織物業では、賃労働者を工場に集め、生産の各工程に数名ずつ配置して、労働に従事させるマニファクチャー(工場制手工業)も出現した

① マニファクチュアは、酒造業や鋳業では江戸前期に見られたが19世紀には、綿織物業では大阪周辺や尾張など、絹織物業では桐生、足利などで見られるようになった

## 江戸幕府の財政



## 徳川幕府の財政改革

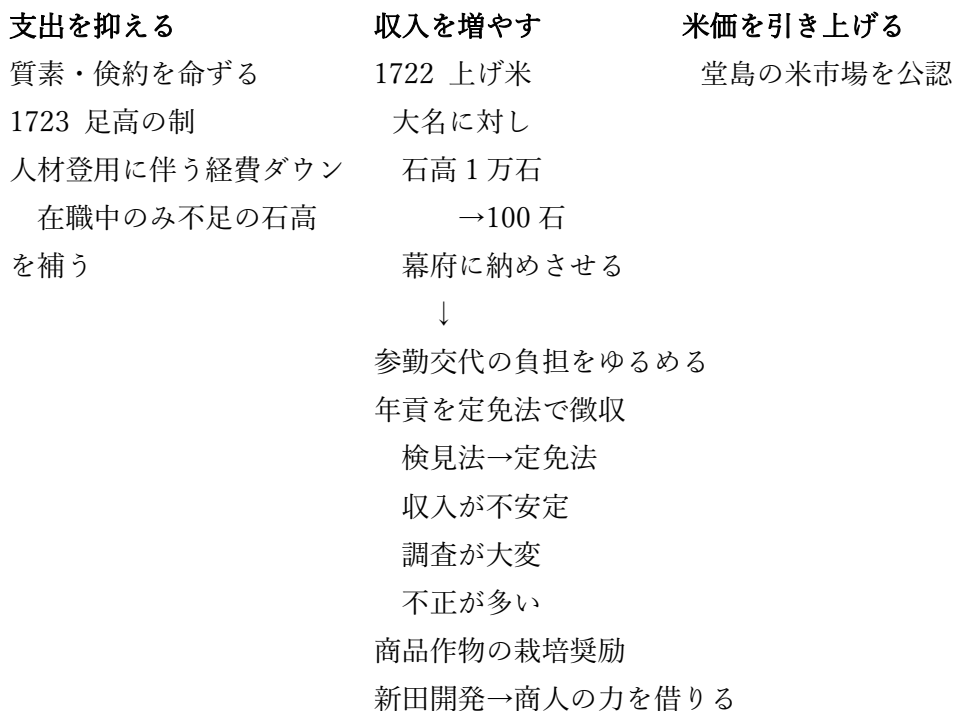
① ~ ③                      ④ ~ ⑦                      ⑧吉宗                      ⑨

1716~

<p><b>幕府の仕組み</b></p> <p>整う</p>	<p><b>経済発展</b></p> <p>農業発展</p>	<p><b>享保の改革</b></p>
--------------------------------	--------------------------------	---------------------

平和で秩序ある時代へ

## 享保の改革(1716~



## 商品作物の栽培奨励

失敗した農民の土地をゲットして地主になる

土地を失い、小作人に

年季奉公 日用稼ぎ

無宿人、博徒

### 江戸の都市政策

貧民農村から江戸へ流入

江戸へ

↑

村、村、村、村・・・

目安箱の設置(人々から将軍が直接入手)

→小石川養生所(貧民の医療施設)

### 幕府の仕組みの整備

お金の貸し借りに関するトラブルは、当事者同士の解決に委ねる

(相対済し令)

裁判や刑罰の基準となる法典

(公事方御定書)

### 影響、結果

幕府の財政は安定

村の負担は増えたので、百姓一揆が増加

-----  
田沼意次の政治 ⑩ 家治

1760～

幕府財政が悪化している中で

支出を減らして

収入を増やすのではなく、

経済を発展させることで財政再建を！

||

重商主義政策

### 百姓一揆が増加して

年貢を増やす政策が限界に達していた

↓

年貢に頼らない

幕府財政の仕組みを作ろうとした

### 地域市場が成長し、流通も発達していた

都市

↑

在郷商人 → + ← 北前船・内海船 → 地域市場

↓

農村

### 民間経済活動を、さらに活発化

南鐐ニ朱銀の発行

貨幣制度を統合して市場を統一

金貨の単位で通用する銀貨 × 8 = 一両 とした

### 貨幣の使われ方

銀貨

高額取引に使う

大阪など西日本で流通

重さで価値を表す

銭貨

小額取引に使う

全国に流通

+

両替商

金貨

高額取引に使う

江戸など東日本で流通

枚数で価値を表す

### 年貢だけに頼らない

幕府財政の仕組みを作る

株仲間を広く公認(同業者でグループを作る(仲間))

↓

→ 価格・販売地域を決め、営業を独占

↓

営業の独占を認める代わりに

税金を納めさせる

銅の専売制を実施

長崎貿易で銅や俵物を輸出

(中国料理の材料)いりこ、干し鮑、フカのヒレを俵詰した

また、さらに、

新しく参入するのは難しい

↓

幕府は、自由に商売させたい

### その他の政策

蝦夷地の探検

印旛沼と手賀沼の干拓

田沼政治の終焉

賄賂が行われる様になってしまった → 幕府への批判

天明の飢饉 1782-88、 1783年浅間山の噴火

経済発展に伴う

冷害・浅間山噴火による

農民の階層分化

天明の飢饉

↓

百姓一揆・打ち壊し・幕府への批判

→ 田沼意次は完全に失脚

-----

⑪ 家斉 1787～ 寛政の改革 白河藩 老中 松平定信

農村がグジャグジャになってしまった

年貢を増やす政策 + 経済発展 → 農民の階層分化

↓

成功者(失敗者の土地をゲット、地主に

商品作物の栽培が盛んに

木綿、菜種

↑

購入肥料の先行投資が必要

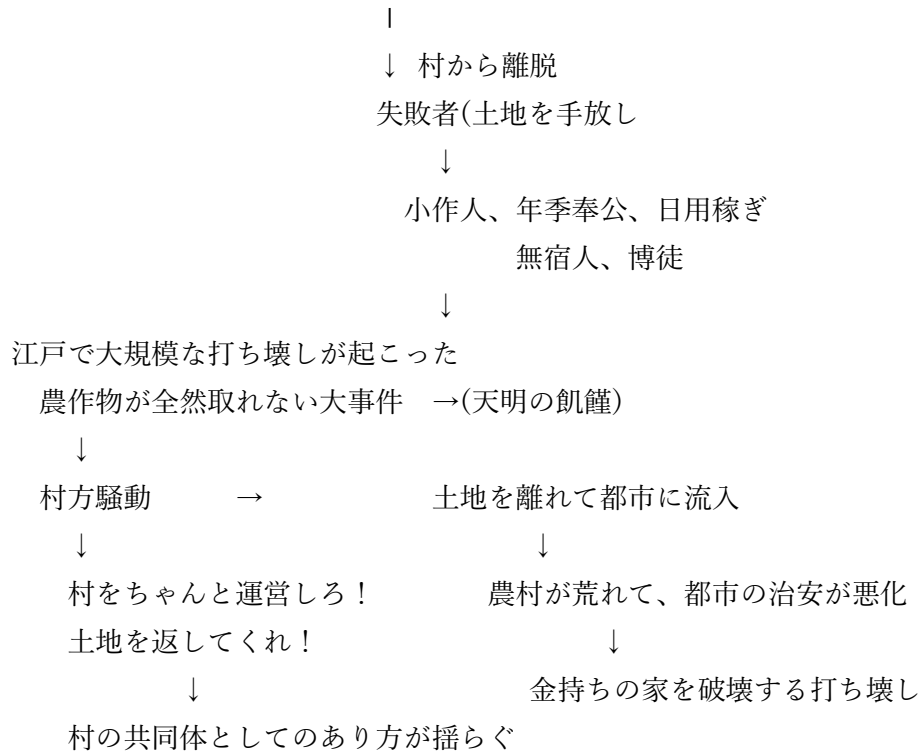
金肥、干鰯、油粕など

土地を担保にお金を借りる

|

将軍・大名

↑ 年貢が徴収しやすくなった  
村の自治化が進む



### 松平定信の寛政の改革政策

#### 荒れた村を復興したい

村の復興政策

- ① 人を増やす  
江戸に来ていた農民に資金を与えて故郷に帰す(郷里帰農令)
- ② 凶作でも耐えられる様にする  
各地に倉を作らせて、米を蓄えさせる(囲米)
- ③ 荒れた田畑を再開発する  
金を貸して、荒れた土地の再開発を支援する

#### 江戸の都市政策

我慢の限界 → 破壊行動

- ① 我慢できない人を排除  
江戸に来ていた農民に資金を与えて故郷に帰す
- ② 我慢できない人を成長させる  
無宿人などを強制収容して社会復帰に向け職業指導(人足寄場)
- ③ トラブル時の限界突破防止



町に町費節約を命じ  
節約分の7割を貯金し  
飢饉などの緊急時に貧民救済(七分積金)

#### その他の政策

旗本や御家人が札差からしていた借金を帳消しにする(棄捐令)  
湯島の昌平坂学問所での朱子学以外の講義や研究を禁じる  
幕政を批判する出版を取り締まる

#### 寛政の改革がどの様に終わったか

政策の内容が厳しいものだった→人々の不満  
尊号一件(朝廷と松平定信の対立)→対処をめぐって将軍家斉と松平が対立

→ 松平は老中を辞任させられる